



2019 子ども虐待防止 キャプネス 市民講演会

《滋賀弁護士会 子どもの権利全国イベント》

映画上映&講演会 「母さんが どんなに 僕を嫌いでも」

6月2日(日) 13:40~17:00

(受付 13:20~)

参加費無料
申込不要

13:40~15:30 映画上映

15:40~17:00 講演

無料法律相談あり
13:00~

「子どもの命と心を守りたい なにができるのか」

講師：歌川 たいじ さん(原作者、小説家・まんが家・エッセイスト)

会場：滋賀弁護士会館4F大会議室 (JR 大津駅北口より東へ徒歩1分)

定員：先着 100名 定員に達した時は入場をお断りする場合があります。

※劇場での上映ではありませんので、見にくい場合があるかも知れませんが、ご理解ください。

幼い頃に両親が離婚し、母から暴言・暴力を受けるようになった。母親の暴力から逃れるため、歌川さんは17歳で家出をし、自分の人生を生きようとした。そんな過酷な、子ども時代、思春期・青年期を生きのびてきたという事が、この原作にはユーモアも交えて、とても客観的に、しかし、情感豊かに描かれています。そして、大人になった自分が、そういう自分の人生と、どのように格闘し、受け入れようとしてきたのかという事も。

この原作の映画も主人公の凄絶な体験を描いていますが、周りの人たちとの出会いによって救われたことも丁寧に描かれていて、最後は心がホッとする映画です。

歌川さんが、その体験を語るまなざしは、とてもピュアで涙もろく、人に対する優しさに溢れていると思います。母の愛を求め続けた息子のお話です。

主催：NPO 法人 子どもの虐待防止ネットワーク・しが (略称 CAPNeS)

共催：滋賀弁護士会子どもの権利委員会・日本弁護士連合会子どもの権利委員会

後援：滋賀県・滋賀県教育委員会 (申請中)

問合せ先：NPO 法人 子どもの虐待防止ネットワーク・しが (略称 CAPNeS)
大津市馬場1-11-4 Tel/Fax 077-525-9680 mail: capnes@nifty.com
事務所が留守の場合は申し訳ありませんが、メールでお問合せください。



胸が張り裂けるような壮絶な過去と向き合い、母の愛を掴み取ろうとした息子の実話が映画化

『母さんがどんなに僕を嫌いでも』。胸が張り裂けるような言葉がタイトルのこの映画は、母親から拒絶され、友だちからも愛されることなく育った青年が、母親を大好きな気持ちを諦めることなく運命と向かい合

い、やがて奇跡を引き起こした実話をもとにした作品だ。原作者である歌川たいじが実体験をもとに書き綴った原作のコミックエッセイは反響を呼び、小説化、そして遂に映画化されるまでになった。

奇跡の実話を紡ぐため、俊才が結集！

主人公・タイジを演じるのは、若手俳優の中でもその演技力の高さに定評のある太賀。タイジを心身ともに傷つけてしまう母・光子役には、実力と人気を兼ね備えた女優・吉田羊。タイジを支える友人・キミツ役を、スティーブン・スピルバーグ監督作品『レディ・プレイヤー1』の

出演で注目を浴びる森崎ウィンや白石隼也、秋月三佳が好演。その他、木野花をはじめとした実力派俳優陣が脇を固めている。主題歌はゴスペラーズが歌う「Seven Seas Journey」。この映画の為に書き下ろした楽曲は澄みきった歌声と強い愛を感じる歌詞が心を打つ。



STORY

歌川タイジ(太賀)は幼い頃から美しい母・光子(吉田羊)のことが大好きだった。だが、家の中にいる光子はいつも情緒不安定で、タイジの行動にイラつき、容赦なく手を上げる母親だった。17歳になったタイジは、ある日光子から酷い暴力を受けたことをきっかけに、家を出て1人で生きていく決意をする。努力を重ね、一流企業の営業職に就いたタイジは、幼い頃の体験のせいでどこか卑屈で自分の殻に閉じこもった大人になっていた。しかし、かけがえのない友人たちの言葉に心を動かされ、再び母と向き合う決意をする。



太賀 吉田 羊

森崎ウィン 白石隼也 秋月三佳 小山春朋 斎藤隆一郎 おかやまはじめ 木野 花

監督:御法川修 脚本:大谷洋介 原作:歌川たいじ『母さんがどんなに僕を嫌いでも』(KADOKAWA刊) 主題歌:ゴスペラーズ「Seven Seas Journey」(キングレコード)

製作:『母さんがどんなに僕を嫌いでも』製作委員会 協賛:IMJグループ 特別協力:ホテル三日月 企画:書間 制作プロダクション:キュー・テック 制作協力:ドラゴンフィルム

配給:宣伝:REGENTS ©2018『母さんがどんなに僕を嫌いでも』製作委員会 hahaboku-movie.jp

6月2日(日)
13:40~17:00